

連光寺・若葉台里山保全地域農的活用検討会（第2回）

日 時 : 令和3年12月23日（木）14:00～16:00
会 場 : 多摩市役所 西第一会議室
出席者 : 八木会長、山田副会長、小形委員、萩原委員
鈴木市民経済部長、鈴木環境部長、渡邊経済観光課長、長谷川公園緑地課長、沖迫農政担当主査、芦澤みどり担当主査、下田主事
オブザーバー フナキ氏（一般社団法人畑会）

※オブザーバー都環境局平野課長代理は欠席

【資料構成】

- 資料1 第1回検討会作業シートまとめ
- 資料2 各委員からの意見・コメント
- 資料3 保育園における農業体験に関するアンケート
- 資料4 保育園における農業体験に関するアンケートの結果
- 資料5 多摩市の農業体験など
- 資料6 農業公園の種類、規模、かかる費用
- 資料7 あい農パーク春日井について
- 資料8 連光寺・若葉台里山保全地域農的活用検討会活用提案をふまえた対応・整理（案）
- 資料9 検討会活用提案をふまえた事業の進め方のパターンと考えられる事業案の列挙
- 資料10 農的活用の試験事業（案）
- 資料11 検討の進め方

【要点録】

- 1 第1回検討会のふりかえり
事務局から説明
- 2 各委員から出された活用案の共有
資料1、2に基づき、事務局から説明
- 3 保育園を対象としたアンケートの報告
資料3、4に基づき事務局から説明

委員：認可保育所以外にも可能な限りアンケートを取ると良い

委員：人気になったら近隣市からも来るかもしれない

委員：さつま芋は、株間 30-40cm 畝間 70-100

委員：園児には 1 人 1 つ手で持ってもらい、残るサツマイモは園に軽トラで運んでいる。園児にたくさん持たせると袋を引きずる

委員：使用料に関して、苗料ということは野菜に対する費用か？

委員：1 株 170 円としている。

委員：人件費を考えるとなかなか厳しい印象であるが、価格はもう少し高くてもよいのではないか。

委員：収穫量がとても少ないときに大変だったことがあり、価格をあまり上げられない

自身の畑で収穫体験のみを行ってもらう。つるを切ったり間口を広げたりして収穫しやすくしている

4 市の事例と他自治体の事例共有

資料 5、6、7 に基づき事務局から説明

委員 横浜市ぐらいの予算規模ではいかがか

委員 市の農園の倍率や駐車場、使用料はどうなっているのか

市 市の家庭菜園には水道・駐車場がない

乞田菜園は人気があり、倍率は 3 倍

上和田菜園 落川菜園は 20 m²区画ということもあり、乞田菜園に次いで人気が高い

他の和田地区にある菜園は、その地域に集中しているためか倍率低い状況

使用料は、10 m² 7200 円／年、20 m² 14400 円／年

委員 近隣市より価格が高くても倍率が 1 倍以上になるのですね。

委員 東京都が小金井市の農地において、新しい事業「高齢者活躍に向けたセミナー農園整備事業」を始めたので、共有したい。

市 (一社)小金井市観光まちおこし協会が運営事業者として指定

委員 このあたりも調べていただきたい。

委員 出納の内容より詳しく知りたい、設備投資等を含め、備考欄をより詳しく知りたい。

市 確かに施設があるかどうかで結構運営費が変わってくる

委員 必ずトイレは必要になるだろう

20～30 馬力のトラクターが必要ではないか。置く場所も必要になる。

5 土地利用方法、農法、運営についての検討

以下 3 点を用いて事務局説明。

活用提案をふまえた対応・整理の提示（資料 8、資料 9）

令和 4 年度試験事業案の提示（資料 10）

以下の6と合わせて、議論。

6 次回及び今後の進め方について

資料11に基づき説明。

上記の5（土地利用方法、農法、運営）と合わせて意見交換

- 委員 今後の進め方であるが、検討会としてまず全体の方針をきめる。
検討会の成果として、資料8,9,10のようなものをつくる。
全体的に必要な条件をリストアップする。
エリアごとの土地利用方法・農法を考える。
上段・斜面・下段がある。
事業内容3年くらいはエリアを意識して物事を考える。
ハードは別に考える
運営体制・ガバナンスをどう決めていくか、指定管理等の契約形態をいつ決めるのか、いつから契約を開始するか
- 委員 来年の時点でトイレは必要になる
2年目には駐車場も必要になるのではないか。
トイレ・駐車場は仮設でもよい。砂利敷とかでもよいだろう。
- 市 保全計画の位置づけをふまえて、①（川崎街道沿い上段）のところを駐車場にしていく考えである。
②(中段市取得予定地)を資料10で示した試験事業のエリアにすることを考えている。
仮設トイレをリースで借りられないか検討する。
- 委員 今回の試験事業は体験までやるということであるが、なかなか失敗できないと思うのだが、そのあたりはいかがだろうか？
- 委員 良し悪しは別として草が生える土地であればさつま芋はできる
- 委員 草が生える前である4月より前に耕耘した方がいい
- 委員 土壌診断もなるべく早く行った方がいい
- 委員 さつま芋以外もできないことはない
- 市 里芋・落花生は人気が高いがどうか
- 委員 さつま芋は確実な作物。落花生はカラスに食べられる
- 委員 里芋は水はけの問題があるので厳しいかもしれない。
- 委員 肥料など入れるもの入れればできる
- 委員 リスク分散で色々作るのはいいかもしれない。
収穫できるといわない方がよいかもしれない。
環境学習という趣旨を強くして募集した方がいいかもしれない。
- 市 竹の子の収穫は必ずしも来年度からできなくてもよいが、竹林の

間伐や整理に手を付けられるとよい

委員 売るレベルのものを作ろうとしなければ大体のものはできる。
無肥料でできるものをつくり、空いているスペースに緑肥がいい

オブザーバー 私たちの農地では牛糞系肥料を入れているが、ここでは入れなくてもいい

委員 自然系の肥料だったら何入れてもよいのだろうか

委員 堆肥置き場を設けたい。

市 有機系肥料がどこまでOKか、都に確認していきたい

委員 作付けは早い方が良いかもしれない。

委員 資金的なこともあると思うが、どこまでやるのか

市 とりあえず試しで 1000 m²というのを考えている

オブザーバー ひまわり、菜の花は印象が良いと思う。
ひまわりは種が取れるタイプと取れないタイプ両方がある

委員 収穫体験（作付け～収穫）についてはいかがか

委員 人を集めるにあたり、お客さんではなく一緒にやってくれるメンバー（ボランティア）を発掘（公募）するのがいいのではない
か。お客さんは後からでも来ると思う
やっていく中で、空気感の異なる人は離れていくと思う

委員 ネーミングは大事だと思うが、なかなか難しい

市 援農ボランティアが以前に活動する場がほしいと言っていた

委員 簡単なテーブルくらいはあった方がいい

市 イベントは何組くらいが適当か？

委員 20 組くらいではないか。30 組だとかなりスキルがないと難しい
だろう。

市 多摩市が実施している家族体験農業も、20 組を募集している。農業委員が指導。児童館職員と経済観光課職員がスタッフとして出る。

オブザーバー 開墾のイベントを過去にやったことがある。

委員 開墾しないところについても草刈が必要、井戸は危ないので早めに処置すべき。

7 そのほか

市 年明け、三島市に先行事例の視察に行く予定。
次回の会議でまた報告する。